

基本施策の振返りシート

基本施策	G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します
------	----------------------

主管課：文化振興課

後期基本計画における5年後にめざす姿	
対 象	意 図
市民が	芸術文化に親しみ、心豊かに生活している。

個別施策	後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み
G4-1	●身近な場所での芸術文化に触れる機会の創出による、子どもの感性の育成	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・保育園などでプロの演奏家による質の高い音楽に触れるアウトリーチコンサートの実施 ○アウトリーチコンサートの演奏家が一堂に会するガラコンサートの実施 ○住民と演奏家が協働で企画するミニコンサートの実施 ○未就学児と保護者を対象にした親子向けコンサートの実施 ○市民演奏家が出演するラウンジコンサートの実施 ○プロの現代美術アーティストとの作品制作を体験できる長崎アートプロジェクトの実施 ○芸術文化活動を行っている団体等の発表の場及び、まちなかの賑わいを創出するNagasakiまちなか文化祭の実施 ○マダム・バタフライ国際コンクールの実施 ○「マダム・バタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる、たのシックフェスティバル及びコンサートの実施
G4-1	●市民の芸術文化活動及び鑑賞の拠点である文化施設の機能の確保と環境の充足	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○ブリックホール・チトセピアホールの指定管理者との連携による管理運営 ○ブリックホール・チトセピアホールの施設設備の更新 ○ブリックホール大ホール予約の市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度の拡大継続 ○遠藤周作文学講座や企画展、映画上映会の開催及び思索空間「アンシャンテ」の整備、展示リニューアルの実施 ○新たな文化施設の整備に向けた検討
G4-2	●芸術文化の担い手の若返り	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休み期間中に子どもたちが舞台芸術を体験することができる、こども演劇体験教室の実施 ○市内の小中学校等での演劇アウトリーチの実施 ○子どもや親子、一般向けのダンスワークショップの実施 ○子どもたちが、日本の伝統文化を体験できる伝統文化体験教室の実施 ○市民と一緒に戯曲を作る戯曲講座の実施 ○市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場としての長崎ブリックホール開館20周年記念事業、市民演劇祭、市民音楽祭、市民美術展、市民いけばな展、市民三曲演奏会の実施 ○ブリックホールサポーターなど市民参画の取組み



成果と効果	
取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
子ども向けの事業を含む自主文化事業等に取り組み、自主文化事業の参加・入場者数は、平成28年度からの3年間で延べ約2万人、平均6,700人となり、直近値である平成26年度の5,989人から増加した。	芸術文化を鑑賞する市民の割合は、すべての年度で目標値を達成した。また、芸術文化活動を行う市民の割合も、平成29年度には目標値を達成し、直近値である平成26年度の15.1%から改善傾向にあることから、市民が芸術文化を楽しみ、心豊かに生活している状態の実現に向けて、進捗が図られた。
ブリックホール、市民会館文化ホール、チトセピアホールの利用者は平成28年度からの3年間で延べ約155万人、年平均約51万6,000人となり、目標値は下回ったものの多くの市民が利用した。 ブリックホール・チトセピアホールの施設や設備の計画的な更新を実施した。 また、平成30年度には、新たな文化施設の整備に向けて、長崎市文化振興審議会において意見を聴取し、基本構想(素案)を取りまとめた。	ブリックホール、チトセピアホールの文化施設としての機能が向上し、利用者の利便性が高まった。 新たな文化施設のビジョンや求められる機能、規模などの基本的な考え方を示す基本構想(素案)の取りまとめにより、市民の芸術文化活動及び鑑賞の拠点である文化施設の機能の確保に向けた検討が進んだ。
遠藤周作文学館の入場者数は、平成28年度からの3年間で延べ約6万5,000人、平均約2万2,000人となり、直近値である平成26年度の1万5,200人から増加した。 文学講座や企画展、映画上映会、展示リニューアルを実施するほか、旧軽喫茶スペースを「思索空間」及び「読書空間」として再整備した。(思索空間アンシャンテ)	入場者数の増加により、多くの方々が遠藤文学に親しむことができた。
平成28年度からの3年間に、34の芸術文化活動団体に対し、約700万円の助成を行った。	音楽、演劇、舞踊、美術など様々な分野の活動に交付され、文化団体の活動に対して直接的な支援を行うことにより、芸術文化活動の活性化につながった。
平成30年度に、長崎ブリックホール開館20周年記念事業を実施し、3,828人が出演者、鑑賞者として参加した。	音楽・舞踊・演劇などの活動を行っている個人・団体が参加・出演し芸術文化を楽しめる場を創出するとともに鑑賞者に対し芸術文化にふれる楽しさや心の豊かさを感じてもらうことができ、自主的な芸術文化活動の活性化と質の向上につながった。

問題点とその要因	
5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
③市の文化施設の管理運営 ・ブリックホールの稼働率が高く、市民の利用希望が多い土日祝日を対象とする大ホールの市民優先日を設定しているが、予約が取りづらい状況にある。 ・文化施設の利用者数が減少している。	公会堂の廃止に伴い、文化施設での芸術文化活動の発表の場が不足している状況にあること、ブリックホール大ホールの改修工事の実施に伴い、平成30年度から大ホールの休止期間が長くなっていることが要因である。
①市民参加・普及啓発型事業の展開 ・市内の小・中学校等を訪問し、実施する演劇アウトリーチの申込団体が音楽アウトリーチに比べて少ない。	音楽に比べ、演劇は子ども達や先生方にとって馴染みが薄いことが要因であると考えられる。
②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み ・市民文化団体の登録数及び所属者数について、目標を達成できていない。	市民の芸術文化活動に対する興味・関心を高める必要があるとともに、市民文化団体制度のメリット等の周知が不足していることが要因であると考えられる。
④文化事業を支援する人材の育成の取組み ・ブリックホールサポーターの登録者数が減少している。	サポーター活動の魅力を高める必要があるとともに、サポーター制度の周知が不足していることが要因であると考えられる。

市民の評価

満足度・期待度	評価	満足度	0.35	23 位 / 43項目中
	再検討	期待度	1.13	
				29 位 / 43項目中

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

【前期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H23	H24	H25	H26	H27
芸術文化を鑑賞する市民の割合	51.2% (21年度)	↑ 目標値	52.2%	53.0%	53.8%	54.3%	55.0%
		実績値	52.8%	51.2%	48.7%	45.6%	53.9%
		達成率	101.1%	96.6%	90.5%	84.0%	98.0%
芸術文化活動を行う市民の割合	17.2% (21年度)	↑ 目標値	18.0%	18.5%	19.0%	19.5%	20.0%
		実績値	20.5%	18.0%	18.4%	15.1%	12.5%
		達成率	113.9%	97.3%	96.8%	77.4%	62.5%

【後期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	H31	H32
芸術文化を鑑賞する市民の割合	45.6% (26年度)	↑ 目標値	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%
		実績値	53.3%	54.2%	53.7%		
		達成率	107.7%	109.5%	108.5%		
芸術文化活動を行う市民の割合	15.1% (26年度)	↑ 目標値	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%
		実績値	14.4%	19.8%	18.3%		
		達成率	76.2%	104.8%	96.8%		

【後期計画の成果指標の検証】

成果指標	成果指標の検証
芸術文化を鑑賞する市民の割合	本指標の増加が、市民が芸術文化に親しみ、心豊かに生活していることを推し量る重要な要素であることから、成果指標としては適している。
芸術文化活動を行う市民の割合	本指標の増加が、市民が芸術文化に親しみ、心豊かに生活していることを推し量る重要な要素であることから、成果指標としては適している。

※成果指標の適否の判断基準を参考に成果指標の検証を記載

成果指標の適否の判断基準

- (1) 施策全体の成果を表したものであったか。
- (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。
- (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。
- (4) 目標値の設定が適切であったか。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成29年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案等	回答課	処理状況						令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号
				完結	処理中			その他			
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中	具体的内容		
基本施策 G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します	文化振興課	成果指標等	<p>○ 市民意識調査における設問を基本施策の成果指標として位置付けているが、回答の方がどこまでの範囲を「芸術文化」と捉えるかにより、調査結果が大きく左右されるため、成果指標として位置付けることが適当であるのか見直す必要があるのではないか。</p> <p>○ 市民意識調査の設問を基本施策G4の成果指標とするのであれば、当該設問の説明の仕方をもう少し工夫してはどうか。</p>	●					市民意識調査において、芸術文化の捉え方がイメージしやすいよう、以下のような説明を加えて工夫しているところがあるが、状況をみながら設問の設定の仕方については検討していきたい。	1	
				文化振興課	●					<p>※「芸術文化」とは、次のようなものを指します。(文化芸術基本法より抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 芸術(文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊など) ○ メディア芸術(映画、漫画、アニメーション、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術) ○ 伝統芸能(雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など) ○ 芸能(講談、落語、浪曲、漫談、漫才など) ○ 生活文化(茶道、華道、書道など) 	2
		文化財等の活用	<p>○ 市民の芸術文化活動を活性化させるための一つの方策として、「保存する文化財」から「活用する文化財」をめざし、文化遺産への理解を深める活動として、文化財等を市民の芸術文化活動の発表の場としてはどうか。</p>	●					<p>これまでも、グラバー園や旧香港上海銀行長崎支店記念館でのコンサート、長崎くんちを題材にした市民参加舞台などを実施するほか、平成30年度は音楽分野の共催事業において、グラバー園のほか出島においてもコンサートを実施しており、有形・無形の文化財を活かした事業を行っている。市では、平成27年に文化財を長期的かつ計画的に保存・継承・活用し、個性あふれる魅力的なまちづくりを推進するためのマスタープランとなる「長崎市歴史文化基本構想」を策定しており、文化財を活用した事業展開については、芸術文化の面からも機会を捉えて取り組みたいと考えている。</p>	3	

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成29年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案等	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号
				完結	処理中	その他	具体的内容		
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中	その他
		後継者不足で悩む伝統芸能のみならず、次世代の文化の担い手の育成は急務である。今後、更に文化活動を継続可能なものとするためには、アーティストと市民、発表者と観客、文化活動団体と行政をつなぐ、いわゆるコーディネーターの育成も重要な課題だと考える。	文化振興課	●				平成30年度に実施した長崎ブリックホール開館20周年記念感謝祭において、地元で活動する芸術家がコーディネーターとなり、音楽・舞踊・演劇といったさまざまな文化活動団体と行政をつなぐ役割を果たし、分野を超えた交流につながった。 コーディネーターの育成は重要な課題のひとつと考えており、今後は長崎大学が平成27年度から3年間実施したアートマネジメント人材育成事業とのつながりを持った事業展開を検討するなど、大学等の関係機関と連携しながら研究を進めていきたいと考えている。	4
		後継者等の育成	文化振興課	●				放課後児童クラブについては、放課後や休み期間中の子どもたちの適切な遊び及び生活の場として多くの児童が在籍していることから、これまでも事業の案内を配布するほか、アウトリーチコンサートや演劇アウトリーチを放課後児童クラブの子どもたちを対象に実施するなど、連携を図っているところである。今後も引き続き働きかけていきたいと考えている。	5
		芸術文化にふれる機会の実現	文化振興課	●				子どもたちの芸術文化への興味・関心の喚起については、裾野を広げるうえでも重要だと考えており、令和元年度についてもプロの演奏家や演劇人が学校へ出向く音楽や演劇のアウトリーチ、親子向けコンサート、伝統文化体験教室、こども演劇体験教室など、子ども向けの事業の実施を予定している。また、市内の音楽団体や大学等と連携し、ブリックホールで実施している「たのシックフェスティバル」は、ハンドベルやハーブ、和楽器や弦楽器などに触れたり、ステージイベントを鑑賞するなど、子どもを中心に幅広い市民が芸術文化に触れ、親しめる内容で実施している。 一方で、市民の音楽グループや個人が無料で出演できるラウンジコンサートをブリックホールで毎年7月から3月にかけて月に1回実施するなどの取組みも行っており、今後も気軽に芸術文化に気軽に触れ、親しめる場づくりに努めたい。	6

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成29年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案等	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号
				完結	処理中	その他			
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中	その他
		<p>指摘・意見・提案等</p> <p>○ 市民が芸術文化に親しむことが重要なのであれば、ブリックホール等でのコンサートの実施よりも地域に根差した取組みが最も大切なのではないか。</p>	<p>文化振興課</p>					<p>文化振興を進めるにあたり、地域の皆様が主体的に取り組まれている地域のコンサートなどの取組みは、子どもたちをはじめとする地域住民が身近に芸術文化に触れる機会を創出するものであり、大きな推進力につながるものと認識しており、地域センターなどの地域と密接な所屬から情報を得るなど情報収集に努めたいと考えている。</p> <p>また、文化振興課の事業としても、これまでにクラシックコンサートや美術の「長崎アートプロジェクト」を合併地区で開催するほか、香焼地区や琴海地区、東長崎地区などで市民参加舞台を地域住民の皆様と一緒に作り公演を行う取組みも実施している。さらに、平成28・29年度には、琴海地区及び野母崎地区において、地域住民とプロの演奏家が企画段階から協働してつくり上げる地域プロデュースコンサートをを行うなど、近年は地域に密着して実施するものにも多く取り組んでいる。</p> <p>令和元年度においても、例年同様、アウトリーチコンサートや演劇アウトリーチなどを様々な地域で開催したいと考えており、香焼地区においては、地元住民と連携し、ホールでのコンサートを行う予定としている。また、アウトリーチコンサートについては、これまでに青少年育成協議会やふれあいセンターなどの地域の団体が主催者となって市内各所で開催されていることから、地域住民の皆様にも質の高い音楽を届ける機会として、広く活用いただけるように引き続き周知に取り組む。</p>	7
		<p>芸術文化にふれる機会の充実</p>	<p>文化振興課</p>	●					
		<p>○ 全体的に音楽に特化した取組みが多いように感じるので、すべての芸術文化を網羅するような取組みを推進してほしい。障害者向けの取組みとしては、市主催の障害者アート作品展やココウオークが主催のアート作品展を開催していただいて、大変ありがたいと思っている。</p>	<p>文化振興課</p>	●					
		<p>その他</p>						<p>市の自主文化事業は、市民文化活動振興プラン及びその実行計画であるアクションプランに沿って、①音楽②演劇・舞踊など③伝統文化④美術の4つの分野について、これらに加え、加創造型事業・普及啓発型事業の3つの形態の事業を実施している。今後も芸術文化あふれるまちの実現のため、市民が日常生活の中で気軽に芸術文化に触れ、自らも文化活動を楽しめるようになることを目指し、幅広い事業展開に努めたい。</p>	8

令和元年度 基本施策評価シート

作成日	令和元年5月31日
-----	-----------

基本施策	G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します				
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図			
	市民が	芸術文化に親しみ、心豊かに生活している。			
基本施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子		
関係課名	学校教育課、生涯学習課				

基本施策の評価

Bc 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが95%以上の目標達成率となったことから、「B」とする。
- ・個別施策の成果指標6つのうち、100%以上の目標達成率が2つと半数以下で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1)…「芸術文化を鑑賞する市民の割合」は目標値を上回った。「①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出」のために、ホールで行うコンサートや演劇公演、演劇アウトリーチ、まちなかでの発表会、学校や公民館などの地域の施設で行うアーティストとの交流事業などの自主文化事業に取り組んだことや、「④遠藤周作文学館の管理運営」において、展示リニューアルを行ったことなどにより、一定の成果は得られていると考えられる。
- (2)…「芸術文化活動を行う市民の割合」はわずかながら目標値を下回った。「①市民参加・普及啓発型事業の展開」のために、演劇、ダンス、伝統文化を体験してもらい、自主的な芸術文化活動を行うきっかけをつくることや「③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出」のために、長崎ブリックホールの開館20周年を記念し、多くの市民が参加・鑑賞できる記念事業を実施したことなどにより、一定の成果は得られていると考えられるが、芸術文化活動の状況を測る一つの指標である市民文化団体の登録数及び所属者数については、目標値を下回っている。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
芸術文化を鑑賞する市民の割合	45.6% (26年度)	↑ 目標値	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%
		実績値	53.3%	54.2%	53.7%		
		達成率	107.7%	109.5%	108.5%		
芸術文化活動を行う市民の割合	15.1% (26年度)	↑ 目標値	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%
		実績値	14.4%	19.8%	18.3%		
		達成率	76.2%	104.8%	96.8%		

今後の取組方針

(1)…引き続き市民に親しんでもらえるような内容の事業を企画するとともに魅力を発信するため、SNSを活用するなど効果的な広報周知活動に努める。遠藤周作文学館の管理運営については、施設や地域の魅力を活用したイベントを実施するとともに、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録に伴うPRの動きと連携し、入館者の増加を図る。

(2)…芸術文化活動助成事業により、多くの質の高い文化活動への支援ができるよう、本制度をわかりやすく周知し、活用の促進を図る。さらに、文化施設の減免やブリックホール大ホールの市民優先日の設定など市民文化団体登録制度のメリット等を周知し、文化団体の登録を推進するとともに、市民参加・普及啓発型事業の展開や市民が参加・出演し、芸術文化を楽しめる場を創出する取組みを継続することにより、自主的な芸術文化活動の活性化を図る。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Bc」については、所管評価のとおり。
- 次期総合計画に向けては成果指標にも定量的な指標を入れられるか検討すること。

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します					
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図				
	市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。				
個別施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子			

平成30年度 of 取組概要

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出
- ・音楽の事業として、身近な場所でプロの演奏家による質の高い音楽に触れる場を提供するアウトリーチコンサートを実施した。
 - ・普段コンサートに行くことが難しい未就学児とその保護者を対象とした親子向けコンサートを実施した。
 - ・ブリックホールのラウンジを活用し、市民演奏家が出演するラウンジコンサートを実施した。
 - ・普段から芸術文化活動を行っている個人・団体の発表の場を提供するとともに、市民が身近に芸術文化を楽しむことができる機会を創出し、まちなかのにぎわいの創出にもつながるNagasakiまちなか文化祭を開催し、音楽・舞踊・演劇の各ジャンルの市民ステージを実施した。また、ココウォークやブリックホール開館20周年記念事業とタイアップし、ココウォーク内やブリックホールのエントランスで開催するなど、新たな取組みを行った。
- ②長崎が舞台のオペラ「マダムバタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる機会の創出
- ・ブリックホールやココウォーク、ハートセンターなど茂里町一帯で行う音楽フェスティバルとして、市内の音楽団体と一体となって子どもから大人まで幅広い市民が気軽に音楽に触れ、親しめるステージイベントや体験コーナー、ブリックホールエントランス等でのミニステージなどを実施した。
 - ・マダム・バタフライ国際コンクールの入賞者や、オペラ「マダムバタフライ」の作曲者プッチーニの生誕地であるイタリア・ルッカ市からソプラノ歌手を招き、長崎の貴重な文化的資産である「マダムバタフライ」を軸としたコンサートを実施し、低価格で質の高い音楽に触れる機会を創出した。なお、開催にあたっては、新たな取組みとして、オペラ公演に近い雰囲気を感じられるよう、著名演出家による舞台演出を加えた。また、事前PRとしてグラバー園や出島においてミニコンサートを開催した。
- ③市の文化施設の管理運営
- ・ブリックホール、チトセピアホールについては、指定管理者との連携のもと管理運営を行った。
 - ・ブリックホールの空調設備や大ホールの吊物機構の改修、スピーカー更新などを行った。
 - ・チトセピアホールの照明設備の更新を行った。
 - ・公会堂の廃止に伴い、ブリックホールにおいては、大ホール予約の市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度の拡大を継続して実施した。
- ④遠藤周作文学館の管理運営
- ・文学講座などのイベントに加え、2年に一度の展示リニューアルを行った。
 - ・軽喫茶スペースを、静かにゆっくりと思いこむ「思索空間」及び遠藤文学をはじめとする本に親しむ「読書空間」として再整備した(思索空間アンシャンテ)。
- ⑤ 新たな文化施設の整備に向けた検討
- ・長崎市の附属機関である長崎市文化振興審議会において意見を聴取し、基本構想(素案)をとりまとめた。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
文化施設の利用者数	519,302人 (27年度見込)	↑ 目標値	520,000	520,000	520,000	520,000	520,000
		実績値	522,843	531,651	494,433		
		達成率	100.5%	102.2%	95.1%		
自主文化事業の参加・ 入場者数	5,989人 (26年度)	↑ 目標値	6,389	6,589	8,489	6,989	7,189
		実績値	6,111	5,557	8,495		
		達成率	95.6%	84.3%	100.1%		
遠藤周作文学館の入館 者数	15,200人 (26年度)	↑ 目標値	21,600	21,600	21,600	21,600	21,600
		実績値	20,442	24,335	25,323		
		達成率	94.6%	112.7%	117.2%		

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサートの実施(20回、1,116人) ・親子向けコンサートの実施(1回、21人) ・Nagasakiまちなか文化祭の実施(5日間、1,249人【音楽・舞踊】浜町【演劇】ココウォーク、ブリックホール) ・長崎ブリックホール開館20周年記念事業の実施<G4-2再掲>(2事業合計3,828人) 	<p>市民に身近な場所で質の高い芸術文化に触れる場、市民の芸術文化活動の発表の機会及び市民が気軽に芸術文化を楽しめる環境を創出し、多くの市民が参加した。ココウォークやブリックホール開館20周年記念事業とタイアップし、ココウォーク内やブリックホールのエントランスで開催するなど、新たな連携や場の創出につながった。</p>
<p>②長崎が舞台のオペラ「マダムパタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサート「イタリアからの風」の実施(1回、850人) ・たのシクフェスティバルの実施(2日間、3,726人) 	<p>マダム・パタフライ国際コンクールの入賞者や、プッチーニの生誕地であるイタリア・ルッカ市からソプラノ歌手を招くほか、著名演出家による演出を加えたコンサートの実施により、長崎にゆかりのある世界的に有名なオペラの世界に触れる機会を創出した。2日間にわたってブリックホールで開催されたコンサートや体験イベントには多くの市民が鑑賞・参加し、音楽に親しむきっかけとなった。</p>
<p>③市の文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブリックホール・チトセピアホールの指定管理者との連携による管理運営の実施 ・ブリックホール・チトセピアホールの施設設備の更新の実施(7件) ・ブリックホール大ホールの予約に係る市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度拡大の継続 	<p>指定管理者による利用者の視点に立った柔軟な運営が行われた。 文化施設としての機能が向上し、利用者の利便性が高まった。 市民がブリックホール大ホールを利用しやすい環境を一定整えることができた。</p>
<p>④遠藤周作文学館の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示リニューアルの実施 ・軽喫茶スペースの思索空間アンシャンテへの再整備 	<p>入館者数が、映画「沈黙-サイレンス-」の公開効果があった前年より増加し、市内外からより多くの人が遠藤文学の世界に親しむ機会の創出につながった。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>③市の文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の利用者数が減少している。 ・市民の利用希望が多い土日祝日を対象とするブリックホール大ホールの市民優先日を設定しているが、予約が取りづらい状況にある。 	<p>ブリックホール大ホールを安全安心で快適に利用していただくために、計画的に改修工事を実施しているが、例年と比べ大幅に長い39日間休止せざるを得なかったため。 公会堂の廃止に伴い、ブリックホール大ホールの稼働率が高い状況であるため。</p>

今後の取組方針

<p>①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き市民に親んでもらえるような内容の事業を企画するとともに、効果的な広報周知活動に努める。 <p>②長崎が舞台のオペラ「マダムパタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体と連携し、内容や広報周知に工夫を加え、事業の充実を図る。なお、令和元年度は市制施行130周年事業の一環として拡大して実施することとしており、引き続き、プッチーニの生誕の地であるイタリア・ルッカ市からゲストを招いてコンサートを実施するほか、子どもを対象としたコンサートを実施するなどの工夫を加え、幅広い市民が楽しめる機会として充実させる。 <p>③市の文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者との連携・協力により、市民の芸術文化活動のニーズに対応できるよう文化施設の柔軟な運営や機能の維持・向上に取り組む。 ・可能な限り、施設利用の機会を制約しないよう工夫しながら、経年劣化や機能の不備に対する計画的な改修等に取組む。 <p>④遠藤周作文学館の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内外のより多くの方々に遠藤文学に親しんでいただけるよう、遠藤周作文学館の魅力を存分に伝えるための情報発信を推進し、施設や地域の魅力を活用したイベントを開催する。 ・「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録に伴うPRの動きと連携し、入館者の増加を図る。 <p>⑤新たな文化施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本構想の策定をはじめとする整備に向けた検討を進め、市民の芸術文化活動及び鑑賞の拠点としての機能を確保する。
--

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 音楽の魅力発信事業費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 市民生活に音楽芸術を広く浸透させるとともに、次世代の文化活動を担う人材の育成を図る。</p> <p>(事業概要) 中央及び地元で活躍する演奏家を、学校・保育園・公民館・病院等へ派遣して行うアウトリーチコンサートや、アウトリーチコンサートに出演した演奏家が一堂に会するガラコンサート等を開催することにより、市民が身近な場所で気軽に音楽を楽しめる機会を創出する。また、地元演奏家が活動できる場を設け、演奏家のスキルアップを図る。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	2,655 人	2,150 人
		実績値	2,889 人	2,451 人
		達成率	108.8 %	114.0 %
		決算(見込)額	5,651,785 円	4,403,321 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績により、アウトリーチコンサート1,000人(20回×50人)、ガラコンサート130人(定員200人×0.65)、親子向けコンサート50人(定員50人)、ミニコンサート375人(定員578人×0.65)、ラウンジコンサート1,100人(出演200人、入場者900人)を想定した。</p>	<p>市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績により、アウトリーチコンサート1,000人(20回×50人)、親子向けコンサート50人(定員50人)、ラウンジコンサート1,100人(出演200人、入場者900人)を想定した。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 開催状況：市内各所 計20回 ・ガラコンサート 開催日：平成30年2月11日 会場：ブリックホール ・親子向けコンサート 開催日：平成29年11月11日 会場：ブリックホール ・ミニコンサート 開催日：平成30年1月21日 会場：野母崎文化センター ・ラウンジコンサート 開催数：年9回 会場：ブリックホール <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 入場者数：1,352人 ・ガラコンサート 入場者数：167人 ・親子向けコンサート 入場者数：52人 ・ミニコンサート 入場者：176人、出演者74人 ・ラウンジコンサート 入場者：818人、出演者：250人 <p>アウトリーチコンサートにおいては、事業効果を高めるために少人数を対象に実施しているが、地道に回数を重ねることで、着実に成果につながっている。</p> <p>野母崎地区で行ったミニコンサートについては、見込みより入場者が伸び悩んだものの、地域の方々と一緒に企画したり、多くの地域住民がプロの演奏家と同じ舞台上に上がるなど野母崎地区ならではのコンサートを行った。</p> <p>今後はブリックホールで行うガラコンサートへの入場者を今以上に増やし、より多くの市民にホールへ足を運んでいただく機会を創出できるよう、工夫に努めたい。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 開催状況：市内各所 計20回 ・親子向けコンサート 開催日：平成30年11月25日 会場：黒崎地区公民館 ・ラウンジコンサート 開催数：年9回 会場：ブリックホール <p>(成果・課題等)</p> <p>参加者数 2,451人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 入場者数：1,116人 ・親子向けコンサート 入場者数：21人 ・ラウンジコンサート 入場者：1,065人、出演者：249人 <p>アウトリーチコンサートにおいては、事業効果を高めるために少人数を対象に実施しているが、地道に回数を重ねることで、着実に成果につながっている。</p> <p>親子向けコンサートについては、初めて外海地区で実施し、結果としては入場者数が伸び悩んだものの、アンケートでは好評であった。なお、ブリックホールで開催する際は毎回定員以上の応募があり、人気が高いことから、定員を増やすことができるよう検討したい。</p> <p>今後はブリックホールでのガラコンサートの開催など、より多くの市民にホールへ足を運んでいただく機会を創出できるよう、工夫に努めたい。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
2	<p>(事業名) Nagasakiまちなか文化祭開催費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 芸術文化活動を行っている個人・団体の発表の場を創出するとともに、市民が身近に芸術文化を楽しむことができる機会を提供し、「まちなか」の賑わいにもつなげる。</p> <p>(事業概要) 「Nagasakiまちなか文化祭」と称し、出演者を公募し、書類審査に加え楽曲・映像審査などによる選考後、音楽・舞踊・演劇の各ジャンルの市民ステージを開催する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	1,510 人	1,210 人
		実績値	1,536 人	1,249 人
		達成率	101.7 %	103.2 %
		決算(見込)額	2,714,076 円	2,895,998 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績等により、400人(音楽)+400人(舞踊)+600人(演劇)=1,400人、出場者見込み110人(音楽50人+舞踊50人+演劇10人)を想定した。</p>	<p>市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績等により、来場者見込み1,100人(400人(音楽)+400人(舞踊)+300人(演劇))、出場者見込み110人(音楽50人+舞踊50人+演劇10人)を想定した。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・音楽ステージ 開催日：平成29年11月11日(土) 会場：ベルナード観光通り特設ステージ ・舞踊・ダンスステージ 開催日：平成29年11月12日(日) 会場：ベルナード観光通り特設ステージ・まちなか劇場(演劇) 開催日：平成29年11月11日(土)、12日(日) 会場：唐子地藏、(株)高橋呉服店、(資)光富商店</p> <p>(成果・課題等) ・音楽ステージ 応募数：20組 出演者：10組44人 入場者数：380人 ・舞踊・ダンスステージ 応募数：11組 出演者：8組55人 入場者数：368人 ・まちなか劇場 応募数：10人 出演者：11人 入場者数：678人(2日間延べ)</p> <p>商店街との共催により開催。音楽、舞踊・ダンス、まちなか劇場のいずれも好評で、多くの来場者があり、市民の芸術文化活動の発表及び鑑賞の場となるとともに、まちなかの賑わいづくりにも一定の役割を果たしている。</p> <p>今後も、恒例イベントとして定着するよう企画内容にも工夫を加えながら広報周知にも努めていきたい。</p>	<p>(取組実績) ・音楽ステージ 開催日：平成30年11月24日(土) 会場：ベルナード観光通り特設ステージ ・舞踊・ダンスステージ 開催日：平成30年11月25日(日) 会場：ベルナード観光通り特設ステージ・まちなか劇場(演劇) 開催日：①平成30年11月10日(土)、11日(日)、②平成30年12月16日(日) 会場：①ココウォーク(1F、5F)、②ブリックホール(エントランス)</p> <p>(成果・課題等) 参加者数 1,249人 ・音楽ステージ 応募数：13組 出演者：10組48人 入場者数：242人 ・舞踊・ダンスステージ 応募数：10組 出演者：10組87人 入場者数：436人 ・まちなか劇場 応募数：11人 出演者：16人 入場者数：420人(3日間延べ)</p> <p>商店街との共催により開催。平成30年度は、ココウォーク及びブリックホール20周年記念感謝祭とのタイアップを行った。音楽、舞踊・ダンス、まちなか劇場のいずれも好評で、多くの来場者があり、市民の芸術文化活動の発表及び鑑賞の場となるとともに、まちなかの賑わいづくりにも一定の役割を果たしている。</p> <p>恒例イベントとして定着してきている一方で応募数が減少傾向にあることから、広報周知やより効果的な実施方法等についても検討していきたい。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
3	<p>(事業名) 遠藤周作文学館運営費のうち、文化講座等開催費 【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 長崎市ゆかりの文学者遠藤周作氏の遺品、作品その他資料の観覧と併せ、遠藤文学の文学講座等を実施し、遠藤文学に関する情報発信と市民文化の振興を図る。</p> <p>(事業概要) 遠藤文学に関する文学講座等を実施する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	2,140 人	1,040 人
		実績値	3,339 人	746 人
		達成率	156.0 %	71.7 %
		決算(見込)額	1,130,200 円	4,331,569 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>遠藤文学への関心を高め、市民文化の向上につなげることを目指しているため、文学講座等の参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績及び会場の定員により、2140人(映画上映会220人、ビデオ上映会70人、文学講座180人(3回)、マコトフジムラ展1380人、マコトフジムラ展関連イベント120人、レコード鑑賞会20人、偲ぶ一日70人、文学さるく20人(2回)、バスツアー60人(4回)を想定した。</p>	<p>遠藤文学への関心を高め、市民文化の向上につなげることを目指しているため、文学講座等の参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績及び会場の定員により、1,040人(第10回企画展オープニング120人、映画上映会580人、文学講座180人(3回)、レコード鑑賞会40人、偲ぶ一日80人、文学さるく20人、バスツアー20人)を想定した。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 映画上映会…418人(2回) 文学講座…106人(2回) 遠藤周作を偲ぶ一日…74人 マコトフジムラ展…2,571人 マコトフジムラ展関連イベント…91人 レコード鑑賞会…25人 文学さるく…14人(2回) バスツアー…40人(4回)</p> <p>(成果・課題等) 参加者数 3,339人</p> <p>入館者増を図るため、これまでのイベントに加え、マコトフジムラ展及び関連イベントを開催した。 映画「沈黙—サイレンス—」公開の効果により全体の入館者数は前年度比1.2倍となり、文学講座等の参加者も目標値を大きく上回ったが、映画公開記念特別展に多数の参加があった平成28年度と比較すると達成率では下回った。 平成30年度は2年に一度の企画展リニューアルの年にあたり、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録が期待されることから、より多くの入館者が期待できる。 今後も、これまでのイベントを継続しつつ、資料の整理を進めることで研究や展示をより深め、さらなる情報発信に努めるとともに、入館者増を図る必要がある。</p>	<p>(取組実績) 映画上映会…470人(2回) 文学講座…84人(3回) 遠藤周作を偲ぶ一日…55人 企画展オープニング…111人 レコード鑑賞会…26人</p> <p>(成果・課題等) 参加者数 746人</p> <p>入館者増を図るため、これまでのイベントに加え、2年に一度の展示リニューアルを行った。 文学講座等の参加者数では目標を達成できなかったが、展示リニューアル等の効果もあり、文学館の入館者数は映画「沈黙—サイレンス—」公開効果があった平成29年度より増加した。 令和元年度は展示リニューアル効果に加え、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されたこともあり、より多くの入館者が期待できる。 今後も、これまでのイベントを継続しつつ、資料の整理を進めることで研究や展示をより深め、さらなる情報発信に努めるとともに、入館者増を図る必要がある。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度	
4	<p>(事業名) マダムバタフライフェスティバル開催費負担金</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 演奏家や主催団体の連携により、多くの市民が音楽を楽しむ機会を創出し、芸術文化への興味関心を高めるとともに、文化団体等のネットワーク構築を図る。</p> <p>(事業概要) 市内文化団体、大学、市等で構成する実行委員会により音楽イベントを開催する。ブリックホールやココウォーク、ハートセンターなど茂里町一帯で行う音楽フェスティバルとして、子どもから高齢者まで楽しめる体験コーナー、ブリックホールエントランス等でのミニステージと併せ、「マダムバタフライ」を軸としたコンサートを開催する。 平成28年度は、平成23年度以来となる声楽の国際コンクール「マダム・バタフライ国際コンクールin長崎」を実施。</p>	実施年度	継続		
		成果指標	入場者数		
		目標値	3,700 人	3,700 人	
		実績値	2,762 人	4,576 人	
		達成率	74.6 %	123.7 %	
		決算(見込)額	4,000,000 円	4,000,000 円	
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が様々な音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、マダムバタフライコンサートを1,000人、ミニコンサートを700人、たのシックフェスティバルを2日間延2,000人とした。</p>	<p>市民が様々な音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、マダムバタフライコンサートを1000人、ミニコンサートを700人、たのシックフェスティバルを2日間延2000人とした。</p>	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	<p>①たのシックフェスティバル 開催日：3月20日～21日 会場：ブリックホール 参加料：無料 体験型プログラム：9種 鑑賞型プログラム：3種</p> <p>②オペラ&名曲コンサート 開催日：3月21日 会場：ブリックホール国際会議場 入場料：自由席(一般)1,000円(高校生)500円 ※当日500円増 中学生以下無料</p>	<p>(取組実績)</p> <p>①たのシックフェスティバル 開催日：9月23日～24日 会場：ブリックホール 参加料：無料 体験型プログラム：12種 鑑賞型プログラム：3種</p> <p>②コンサート「イタリアからの風」 開催日：9月24日 会場：ブリックホール大ホール 入場料：自由席(一般)2,000円(大学生)1,000円 ※当日500円増 高校生以下無料</p>
			(成果・課題等)	<p>①来場者：2,362人(2日間延べ) ②入場者：400人</p> <p>様々な楽器の体験やエントランスでのイベント、コンサートを多くの市民に楽しんでもらうことができ、音楽を楽しむ市民の裾野の拡大につながった。</p> <p>マダム・バタフライ国際コンクールの入賞者などによるコンサートにより、多くの市民がオペラの世界に触れる機会を創出できた。</p> <p>なお、平成29年度は、当初大ホールで開催予定であった「オペラ&名曲コンサート」を国際会議場で開催し、「たのシックフェスティバル」の体験型プログラムである「オーケストラ入門」の会場を国際会議場から大ホールへ移した。</p> <p>結果として、事業全体の入場者数は減少したものの、「オーケストラ入門」は、より臨場感のある内容となり、参加者にとっては充実した体験プログラムとなった。</p> <p>今後も、各団体と連携し、事業内容や広報周知に工夫を加えながら、事業の充実を図りたい。</p>	<p>(成果・課題等)</p> <p>①来場者：3,726人(延べ) ②入場者：850人</p> <p>様々な楽器の体験やエントランスでのイベント、コンサートを多くの市民に楽しんでもらうことができ、音楽を楽しむ市民の裾野の拡大につながった。</p> <p>マダム・バタフライ国際コンクールの入賞者などによるコンサートにより、多くの市民がオペラの世界に触れる機会を創出できた。</p> <p>平成30年度のコンサートは、マダムバタフライの作曲家であるブッチーニの故郷、イタリア・ルッカ市からソプラノ歌手をゲストに迎え、コンクール入賞者と共演した。さらに演出をつけることにより、よりオペラ公演に近いコンサートになり、観客からの反応もよかった。</p> <p>今後も、各団体と連携し、事業内容や広報周知に工夫を加えながら、事業の充実を図りたい。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
5	<p>(事業名) 新文化施設整備推進費 基本構想策定費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 新たな文化施設を整備するうえでのビジョンや求められる機能、規模などの基本的な考え方を示すものとして基本構想を策定する。</p> <p>(事業概要) 市民文化団体や学識経験者等15名で構成する長崎市文化振興審議会に、舞台設備の専門家、ホール整備及び運営に関する有識者等、ホール基本構想策定に必要な識見を持つ8名の臨時委員を加え、意見を聴取し、基本構想を策定する。</p>	実施年度		
		成果指標	基本構想策定に係る文化振興審議会開催回数	
		目標値		4回
		実績値		5回
		達成率		125%
		決算(見込)額	円	4,222,744円
		成果指標及び目標値の説明		基本構想(素案)については、文化振興審議会において、十分な審議を行い、意見を聴取することが重要であるため、開催回数を成果指標とした。 目標値は、予算計上時に計画した4回とした。
		取組実績、成果・課題等		<p>(取組実績)</p> <p>①文化振興審議会の開催 ・平成30年12月～平成31年3月に計5回</p> <p>②素案に対する市民文化団体へのアンケート ・平成31年3月28日～平成31年4月9日</p> <p>③素案に対するパブリック・コメント ・平成31年3月28日～平成31年4月27日</p> <p>長崎市の附属機関である長崎市文化振興審議会において意見を聴取し、素案をとりまとめた。 また、素案の段階で長崎市に市民文化団体として登録している団体(約270団体)に対するアンケートや市民等に対するパブリック・コメントを実施し、広く意見を聴取した。 今後も適切な手法により幅広い意見を聴取しながら、整備に向けた検討を進めていく。</p>

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図	
	市民が	自主的な芸術文化活動を活発に行っている。	
個別施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子

平成30年度 of 取組概要

- ①市民参加・普及啓発型事業の展開
- ・ブリックホール開館20周年にあたる平成30年度から始まる市民参加舞台の新企画1年目として、公募で集まった市民と一緒に戯曲(演劇の台本)を作る戯曲講座を実施した。
 - ・夏休み期間中に子どもたちが舞台芸術を体験することができる、こども演劇体験教室を実施した。
 - ・演劇に興味がなかった市民でも参加しやすいテーマを設定して演劇ワークショップを実施した。
 - ・地元演劇人を起用し、市内の小中学校等で演劇アウトリーチを実施した。
 - ・子どもや親子、一般向けにダンスワークショップを実施した。
 - ・子どもたちが、箏、水墨画、浴衣着付など日本の伝統文化を体験できる伝統文化体験教室を実施した。
- ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み
- ・市民文化団体に対して芸術文化活動助成金を交付し、文化団体の活動を支援した。
- ③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出
- ・長崎ブリックホール開館20周年記念事業、市民演劇祭、市民音楽祭、市民美術展、市民いけばな展、市民三曲演奏会を実施した。
- ④文化事業を支援する人材の育成の取組み
- ・ブリックホールサポーターなど市民の参画を得て事業に取り組んだ。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
ブリックホールサポーター登録者数	74人 (26年度)	↑ 目標値	90	90	90	90	90
		実績値	76	91	68		
		達成率	84.4%	101.1%	75.6%		
市民文化団体の登録数	282団体 (26年度)	↑ 目標値	287	273	292	277	296
		実績値	273	266	271		
		達成率	95.1%	97.4%	92.8%		
市民文化団体の所属者数	33,224人 (26年度)	↑ 目標値	33,579	31,941	34,164	32,409	34,632
		実績値	26,786	23,803	24,084		
		達成率	79.8%	74.5%	70.5%		

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①市民参加・普及啓発型事業の展開 ・戯曲講座・リーディング公演の実施(11回、278人) ・こども演劇体験教室の実施(8回、104人) ・演劇ワークショップの実施(3回、28人) ・演劇アウトリーチの実施(15回、381人) ・ダンスワークショップの実施(4回、101人) ・伝統文化体験教室の実施(9回、75人)	演劇やダンス、伝統文化が体験できる事業の実施により、子どもから大人まで幅広い世代が、芸術文化に触れることができ、自主的な文化活動へのきっかけづくりにつながった。
②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み ・市民文化団体に対する助成(13団体、2,138千円)	音楽、演劇、舞踊など様々な分野の活動に交付され、文化団体の活動に対して直接的な支援を行うことにより、芸術文化活動の活性化につながった。
③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出 ・長崎ブリックホール開館20周年記念事業の実施<G4-1再掲>(2事業合計3,828人)	音楽・演劇・舞踊などの活動を行っている個人・団体が参加・出演し芸術文化を楽しめる場を創出することができ、自主的な芸術文化活動の活性化と質の向上につながった。 普段、市民文化活動を行っている団体等が力を合わせて新たな取組みを行ったことにより、市民文化団体同士のつながりが深まった。 若い世代による企画への発案や積極的な活動が見られ、将来を担う人材の活躍の場づくりにつながった。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①市民参加・普及啓発型事業の展開 ・市内の小・中学校等を訪問し、実施する演劇アウトリーチの申込団体が音楽アウトリーチに比べて少ない。	演劇は音楽に比べ、子ども達や先生方にとってなじみが薄いことが要因であると考えられる。
②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み ・市民文化団体の登録数及び所属者数について、目標を達成できていない。	市民の芸術文化活動に対する興味・関心を高める必要があるとともに、市民文化団体制度のメリット等の周知が不足していることが要因であると考えられる。
④文化事業を支援する人材の育成の取組み ・ブリックホールサポーターの登録者数が減少している。	サポーターの高齢化や登録者の固定化が要因であると考えられる。

今後の取組方針

①市民参加・普及啓発型事業の展開

・今後も市民の芸術文化活動の活性化を図るために継続した取組みを実施するとともに、SNSを含めた様々な媒体を活用することや、小・中学校を対象とした事業を実施する際は、校長会で直接周知を行うなど、効果的・効率的な広報周知に努める。

・演劇アウトリーチについては、演劇の手法を用いた体験プログラムを通じて物語を創作する内容となっており、子どもたちのコミュニケーション能力を育み、自己表現を豊かにする効果がある。このような教育的な有効性について教職員に理解してもらうための取組みや、開校周年事業の実施を予定している等、節目の時期にあたる学校に対してアプローチを行うなど、事業手法に工夫を施しながら浸透に努める。

・子どもたちから芸術文化を身近に親しめる機会の創出を積極的に行い、より多くの子どもたちの興味関心を高め、次世代を担う人材育成につなげる。

②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み

・芸術文化活動助成事業により、多くの質の高い芸術文化活動への支援ができるよう、本制度をわかりやすく周知し、活用の促進を図る。

・文化施設の減免やブリックホール大ホールの市民優先日の設定など、市民文化団体登録制度のメリット等を周知し、文化団体の登録を推進する。

・普及啓発型事業の展開や市民が参加・出演し、芸術文化を楽しめる場を創出する取組みを継続することにより、自主的な芸術文化活動の活性化を図る。

④文化事業を支援する人材の育成の取組み

・ブリックホールサポーターの登録推進のために広報周知を強化するとともに、サポーター活動の充実に向けた検討を行う。

・インターンシップや大学と連携したボランティアの受入れなど、多くの市民が様々な事業に参画する機会を創出することで、芸術文化活動への興味関心を高め、自主的な文化活動の活性化を図る。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
	(事業名) 市民参加型舞台公演等開催費 【文化振興課】 (事業目的) 市民に演劇の台本制作や舞台公演に参加する機会を提供し、舞台芸術に係る人材育成と活動の活性化を図る。 (事業概要) 長崎では鑑賞する機会が少なかった、著名な劇作家・演出家が手掛ける質の高い小劇場から中劇場向けの舞台芸術作品を招聘し、新たな観客の獲得につなげる。さらに、様々なワークショップを開催し、普及啓発を図る。なかでも演劇アウトリーチは、演劇をツールとして市民の豊かなコミュニケーション力の育成に寄与するものであり、参加する子どもが増えることで、将来的にまちづくりを担う市民の人材育成にもつながるものである。	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	735 人	760 人
		実績値	887 人	892 人
		達成率	120.7 %	117.4 %
		決算(見込)額	3,978,564 円	3,705,939 円
		成果指標及び目標値の説明	市民が演劇に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。 目標値は、演劇公演160人(200席×0.8)、演劇アウトリーチ300人(20人×15回)、こども演劇体験教室100人(参加者20人、観客80人)、演劇ワークショップ75人(15人×5回)、ダンスワークショップ100人を想定した。	市民が演劇に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。 目標値は、戯曲講座200人(参加者20名×10回・延)演劇アウトリーチ300人(20人×15回)、こども演劇体験教室100人(参加者20人、観客80人)演劇ワークショップ60人(20人×3回)、ダンスワークショップ100人を想定した。

<p>1</p>		<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇公演「とおのもののけやしき」 日程：8月19日(土)、20日(日) 会場：チトセピアホール ・こども演劇体験教室 日程：8月20日(日)、 8月22日(火)～27日(日) 会場：ブリックホール ・演劇ワークショップ(2ヶ所、4回) 日程：9月24日(日)、10月28日(土)、29日(日) 会場：ブリックホール、日見地区公民館講堂 ・演劇アウトリーチ 回数：15回(小学校15) ・ダンスワークショップ 日程：7月27日(木)、9月30日(土)、11月18日(土) 場所：ブリックホール 内容：ヒップホップ、親子ダンス、クラシックバレエ <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇公演 入場者：220人 ・こども演劇体験教室 参加者：13人 入場者：54人 ・演劇ワークショップ 参加者：54人 ・演劇アウトリーチ 参加者：430人 ・ダンスワークショップ 参加者：116人 <p>演劇アウトリーチやワークショップ、こども演劇体験教室など多くの市民が演劇やダンスを体験することができた。 今後は、体験だけでなく市民が上質な演劇を観劇する機会も提供していく。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戯曲講座「ながさきのたね～お話のたねを探しに行こう!～」 日程：7月22日(日)、8月12日(日)、9月29日(土)、10月21日(日)、11月4日(日)、12月1日(土)、12月15日(土)、12月16日(日)、1月13日(日)、2月11日(月祝)、3月3日(日) 会場：ブリックホールほか ※12月15日(土)、16日(日)はブリックホールでリーディング公演を実施。 ・こども演劇体験教室 日程：8月18日(土)、8月19日(日)、8月21日(火)～26日(日) 会場：ブリックホール ・演劇アウトリーチ 回数：15回(小学校10、中学校2、公民館1、商業施設2) ・演劇ワークショップ(3回) 日程：5月21日(月)、1月14日(月・祝)、1月15日(火) 会場：ブリックホール、長崎大学医学部 内容：フリースクール対象(1回)、老いと演劇(2回) ・ダンスワークショップ 日程：8月2日(木)、9月1日(土)、9月7日(金) 内容：ヒップホップ、親子ダンス、コンテンポラリーダンス (成果・課題等) 参加者数：892人 ・戯曲講座 参加者：143人(13人×11回) リーディング公演入場者：135人 ・こども演劇体験教室 参加者：21人 発表会入場者：83人 ・演劇アウトリーチ 参加者：381人 ・演劇ワークショップ 参加者：28人 ・ダンスワークショップ 参加者：101人 ・演劇アウトリーチやワークショップ、こども演劇体験教室など多くの市民が演劇やダンスを体験することができた。 今後も継続して市民が舞台芸術に関わる機会を提供していく。
----------	--	---	---

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度	
2	<p>(事業名) 芸術文化活動助成事業費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 市内の文化団体への助成を行うことにより、自主的な芸術文化活動を支援し、芸術文化の向上及びコミュニティの醸成を図る。</p> <p>(事業概要) 文化団体の自主的な芸術文化活動及び合併地区における文化の振興並びにコミュニティの醸成に寄与する文化事業に対し、30万円を限度として助成金を交付する。</p>	実施年度	継続		
		成果指標	助成金執行率		
		目標値	100.0 %	100.0 %	
		実績値	72.6 %	59.4 %	
		達成率	72.6 %	59.4 %	
		決算(見込)額	2,712,450 円	2,275,542 円	
		成果指標及び目標値の説明	文化団体への助成を行うことで市民の芸術文化活動を支援することを目指しているため、助成金予算(19節)総額に占める交付額の割合を成果指標とした。目標値については、100%とした。		
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 市内文化団体の芸術文化活動に助成を行った。</p> <p>(成果・課題等) 交付額:2,614千円 交付申請件数:11件(うち合併地区2件)</p> <p>前年度に比べ、申請件数が増加した。前年度1件であった合併地区枠で2件の申請があったものの、より一層、本制度の周知を図り、積極的な文化活動への取組みを啓発する必要がある。</p>	<p>(取組実績) 市内文化団体の芸術文化活動に助成を行った。</p> <p>(成果・課題等) 交付額:2,138千円 交付申請件数:13件(うち合併地区2件)</p> <p>前年度に比べ、申請件数が増加し、合併地区枠での申請もあった。今後も、より一層、本制度の周知を図り、積極的な文化活動への取組みを啓発する必要がある。</p>	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度	
3	<p>(事業名) 芸術文化体験教室開催費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 子どもが、気軽に芸術文化を体験できる機会を創出し、芸術文化活動に対する興味・関心を高める。</p> <p>(事業概要) 伝統文化体験教室 日本の伝統文化の体験講座を小中学生を対象に開催する。</p>	実施年度	継続		
		成果指標	参加者数		
		目標値	130 人	110 人	
		実績値	78 人	75 人	
		達成率	60.0 %	68.2 %	
		決算(見込)額	597,402 円	608,580 円	
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が伝統文化をはじめ様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。 目標値は、各講座の定員の合計数とした。</p>		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	<p>伝統文化体験教室 対象: 小学4年生から中学生 ジュニア箏体験教室 日時: 平成29年7月22日、8月5日、21日、30日、9月23日(5回) 会場: ブリックホールリハーサル室 ジュニア水墨画体験教室 日時: 平成29年7月24日(2回) 会場: ブリックホール会議室3~5 ジュニア茶道体験教室 日時: 平成29年8月22日(2回) 開場: ブリックホール和室・茶室</p>	<p>(取組実績) 伝統文化体験教室 対象: 小学4年生から中学生 ジュニア箏体験教室 日時: 平成30年9月1日、16日、22日、29日、10月13日(5回) 会場: ブリックホールリハーサル室 ジュニア水墨画体験教室 日時: 平成30年8月25日(2回) 会場: ブリックホール会議室1~3 ジュニア浴衣着付・作法体験教室 日時: 平成30年7月23日(2回) 開場: ブリックホールリハーサル室</p>
			(成果・課題等)	<p>伝統文化体験教室 ジュニア箏体験教室 参加人数10人(応募数11人) ジュニア水墨画体験教室 参加人数38人(応募数48人) ジュニア茶道体験教室 参加人数30人(応募数47人)</p>	<p>(成果・課題等) 参加者数: 75人 伝統文化体験教室 参加人数: 11人(応募数19人) ジュニア水墨画体験教室 参加人数: 36人(応募数42人) ジュニア浴衣着付・作法体験教室 参加人数: 28人(応募数28人)</p>
			<p>ジュニア箏体験教室においては、5回の連続講座で発表まで行う内容であったため、達成感を得ることができた。 ジュニア水墨画体験教室では、基本を楽しく分かりやすく体験できる内容となっており、参加者の満足度も高かった。 ジュニア茶道体験教室では、参加者が定員に達しなかったことが反省点だが、一人ひとりに指導が行き渡り、充実した体験となった。 このように様々なタイプの教室を用意することで、子どもたちがそれぞれの興味関心に応じて教室を選択でき、また、各教室は参加者のみならず保護者からも好評であった。 今後も、日本の伝統文化を体験する機会の創出を通じて、子どもたちの伝統文化への理解と興味・関心を促し、保護者にも満足していただけるよう継続した事業展開を行いたい。</p>	<p>ジュニア箏体験教室においては、5回の連続講座で発表まで行う内容であったため、達成感を得ることができた。 ジュニア水墨画体験教室、ジュニア浴衣着付・作法体験教室は、参加者数が定員に満たなかったが、その分一人ひとりに指導が行き渡り、参加者の満足度は高かった。 このように様々なタイプの教室を用意することで、子どもたちがそれぞれの興味関心に応じて教室を選択でき、また、各教室は参加者のみならず保護者からも好評であった。 今後も、日本の伝統文化を体験する機会の創出を通じて、子どもたちの伝統文化への理解と興味・関心を促し、保護者にも満足していただけるよう継続した事業展開を行いたい。</p>	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
4	<p>(事業名) ブリックホール開館20周年記念事業開催費負担金</p> <p>【担当課名】 文化振興課</p> <p>(事業目的) 長崎ブリックホール開館20周年を記念し、多くの市民が参加・鑑賞できる芸術文化事業を実施する。市民文化団体等が活発に芸術文化活動を行うとともに、市民が日常的に芸術文化に触れる機会を創出する。</p> <p>(事業概要) ブリックホール開館20周年を記念し、記念事業として多くの市民が参加・鑑賞できる芸術文化事業を実施する。</p> <p>1 長崎ブリックホール開館20周年記念感謝祭 市民文化団体等、日頃から芸術文化活動に取り組む市民が一堂に会し、ブリックホールを舞台に多彩な分野の発表を繰り広げ、交流を深める市民参加型の記念事業。</p> <p>2 ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団室内楽企画公演 世界屈指のオーケストラの小編成室内楽コンサート及び交流事業として学校等へのアウトリーチを実施し、市民が一流の演奏を身近に鑑賞できる機会を創出する。</p>	実施年度	平成30年度	
		成果指標	参加・入場者数	
		目標値		7,525 人
		実績値		3,828 人
		達成率		50.9 %
		決算(見込)額		5,400,000 円
		成果指標及び目標値の説明	ブリックホール開館10周年事業として実施した「文化のつどい」の参加者数(1,173人)、入場者数(5,902人)及びロイヤル・コンサートヘボウ室内楽企画公演の入場見込数(350人)、ワークショップ等の地域交流プログラム参加見込数(100人(50人×2回))を目標値とした。	
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>1 長崎ブリックホール開館20周年記念感謝祭 日程：12月15日(土)、16日(日) 内容：ステージ部門(大ホール)4公演、作品展示部門、体験教室・ワークショップ、リーディング公演、まちなか劇場、音楽×ドリンクコンサート、クラシックコンサート、シアター「20分劇場」、ダンス公演 会場：長崎ブリックホール</p> <p>2 ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団室内楽企画公演 ・「ムジカ・レアーレ」長崎公演 日程：11月19日(月)19時開演 会場：ブリックホール 国際会議場 入場料：前売券4,000円(全席自由) 当日券4,500円 ・楽団員によるワークショップ(2回) 日程：11月18日(日) 対象：長崎西高等学校吹奏楽部、ジュニアオーケストラながさき(成果、課題等) 参加者数：3,828人</p> <p>1 長崎ブリックホール開館20周年記念感謝祭 ・ステージ部門4公演 入場者1,368人 出演者 353人 ・作品展示部門 602人 ・シアター「20分劇場」6公演 203人 ・体験教室・ワークショップ 158人 ・オープニングセレモニー 148人 ・リーディング公演4公演 135人 ・まちなか劇場2公演 169人 ・音楽×ドリンクコンサート 40人 ・クラシックコンサート 202人 計 3,378人</p> <p>2 ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団室内楽企画公演 ・「ムジカ・レアーレ」長崎公演 入場者 402人 ・楽団員によるワークショップ(2回) 参加者 48人</p> <p>長崎ブリックホール開館20周年記念感謝祭では、市民文化団体相互の交流と連携を図ることができ、また市民のふれあいの場とさまざまな分野の発表を鑑賞し、体験できる機会を提供することができた。</p> <p>ロイヤルコンサートヘボウ管弦楽団の室内楽企画「ムジカ・レアーレ」長崎公演では、世界でも一流の奏者による演奏を聴いていただくことができた。また、地方公演では困難な満席という結果を残すことができた。ワークショップでは子どもたちに世界一流の奏者に直接指導していただく機会をつくり出すことができた。</p>			

